



足柄大橋工事中に発掘調査された時の模様



酒匂堰取入口跡 (大井町生涯学習センターに移設)
町指定重要文化財 昭和46年6月8日指定

酒匂堰は、酒匂川の水を取り入れて水田に水を潤す農業用水路です。この用水路の取入口は、あしがらおほし足柄大橋が架かる大井町金手側の堤防付近にありました。慶安4(1651)年に造られました。町から小田原市の酒匂川左岸23カ村、約500ヘクタール(小田原藩の2万石分)の水田を潤し、昭和12(1937)年に取入口が上流に移されるまで286年間使われてきました。

取入口の水門は、幅約4.85メートルの石造りで、水路の長さは7.2メートルあり、全長12キロメートルにおよぶ酒匂川左岸の水田をよく潤しました。現在は、取入口の一部を生涯学習センター敷地内に移設し、復元してあります。



足柄大橋金手側には取入口跡の記念碑がある

